

### Ⅲ 環境教育事業（加瀬澤）

#### 1 環境教育事業一覧

〈平成25年度事業一覧〉

No.	事業	件数 (件)	参加者数(人)	
			大人	小人
1	市内小学校体験学習	11	834	
2	市外小学校体験学習	1	94	
3	森の子コレンジャー活動	13	—	155(※1)
4	講演・研修	12	236	
5	地域との協働ツアー	2	30	
6	市の森づくり事業	2	46	63
7	アニマルサンクチュアリ活動	4	28	27
8	出展	2	—	
合計		47	1,513	

※1 延べ人数。

〈平成26年度事業一覧〉

No.	事業	件数 (件)	参加者数(人)	
			大人	小人
1	市内小学校体験学習	12	53	1,004
2	市外小学校体験学習	1	6	75
3	森の子コレンジャー活動	11	—	137(※1)
4	講演・研修	12	208	126
5	市の森づくり事業	1	13	16
6	アニマルサンクチュアリ活動	5	9	33
7	出展	2	—	
合計		44	1,680	

※1 延べ人数。

〈平成27年度事業一覧〉

No.	事業	件数 (件)	参加者数(人)	
			大人	小人
1	市内小学校体験学習	12	60	799
2	森の子コレンジャー活動 (アニマルサンクチュアリ活動含む)	14	21	162(※1)
3	講演・研修	19	320	266
4	地域との協働ツアー	1	13	
5	市の森づくり事業	2	31	66
6	出展	2	—	
合計		50	1,738	

※1 延べ人数。

## 2 主な事業内容

### 2-1 市内外小学校体験学習

体験学習の実施に当たり、事前に小学校の先生と打合せと実踏を行い、児童に体験してほしいことや学習のねらいなどを共有します。森を歩きながら、森林レンジャーあきる野の活動や自然について伝えることで、レンジャーが行う環境教育について理解していただき、学校での事前・事後学習につながる体験を提案しています。

体験学習で利用するルートや場所は、主に地域住民や森林サポートレンジャーあきる野と協働で復活させた昔道や景観整備を行った地区、森の子コレンジャーとのアニマルサンクチュアリ活動で整備したところです。体験学習は、本市の小宮地区を中心に実施していますが、市内の森には協働の力で復活したルートが他にも多くあります。地域住民が整備、管理しているルートを子どもたちが活用していくことで、地域住民の活動意欲の向上につながっていくことを願っています。

体験学習は「自然を好きになるきっかけ」を与える目的で取り組んでいます。身近な自然を再発見し、好きになることで、豊かな自然、歴史・文化がある地域に誇りを持つことにつながると考えています。また、体験学習を終えて、「もっと自然を知りたい」という思いを持った子どもたちが、レンジャーと共に学び、森づくりを行うコレンジャーへ加入するという流れが作られています。

体験学習を終えた子どもたちから、多くの感想をいただきました。



体験学習後に届いた子どもたちの感想など

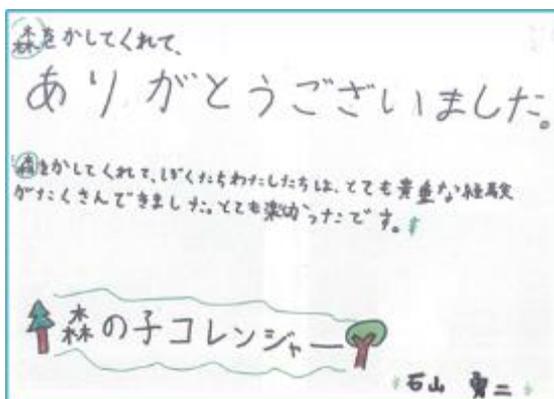
## 2-2 森の子コレンジャー活動

森の子コレンジャー活動の目的の一つとして、「それぞれの子どもの研究心を要に、自身が興味のある自然について調べ、自然の中でどのような『つながり』を持っているのかを発見すること」を掲げています。また、コレンジャーたちは、レンジャーが行う自然のための活動（アニマルサンクチュアリ活動）への協力を通じて、自然と人との関わりをレンジャーと共に考え、行動していく姿勢を育てています。

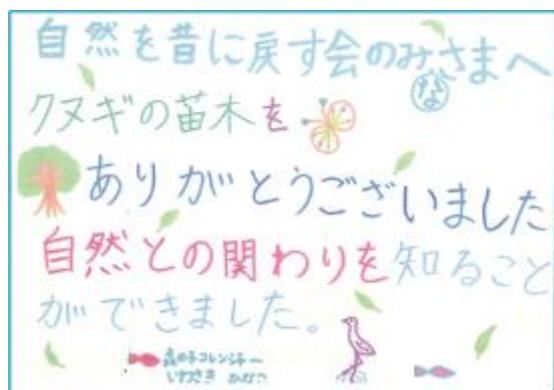
平成27年には、3年間コレンジャーとして活動したリーダー4人が「あきる野市生物多様性シンポジウム」でコレンジャーの活動や自身の自然に対する思いなどを発表しました。



② ご協力いただいた方へ感謝の気持ちを伝える



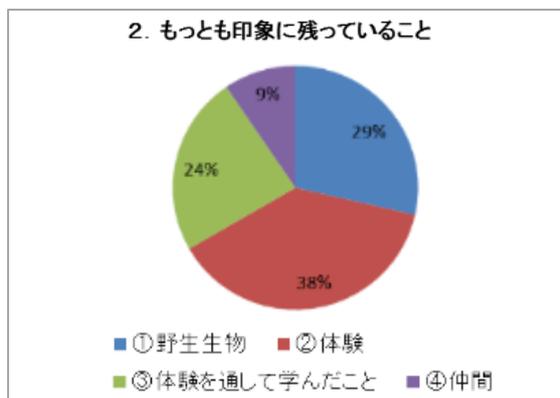
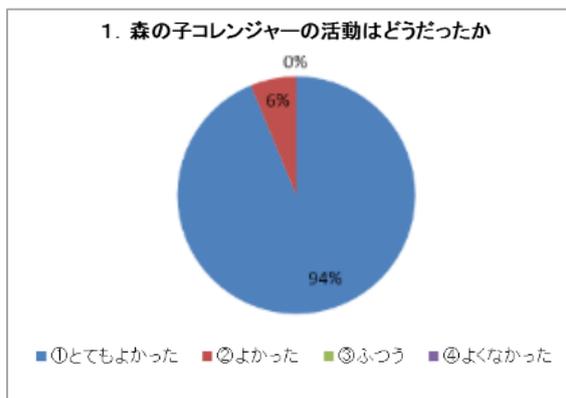
ビオトープ作りのために谷津田だった場所を快く貸して下さる沖倉さん夫妻



クヌギの苗木をいただいた自然を昔に戻す会の岡部さん

コロンジャーたちは、自分たちの活動には、協力してくれる地域住民がたくさんいることを知り、その方々に感謝の気持ちを伝えました。これは、自然がつながりを持って成り立っているように、自分たちの活動も「誰かの協力があってできる」「誰かが喜んでくれている」ことをコロンジャーたちに感じてもらう一方で、地域住民にとっても喜びや子どもたちとつながる機会となっていればと思っています。

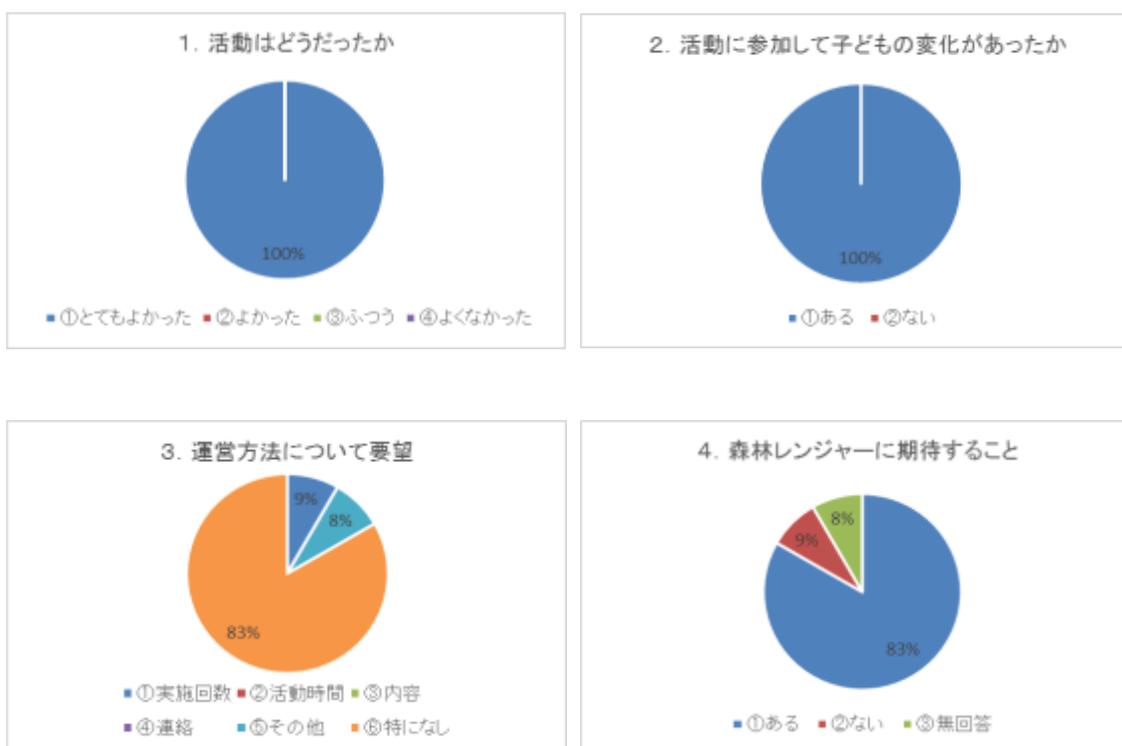
③ 森の子コロンジャーアンケート結果（第4期より）



(子どもたちの感想)

- 自然と人がもっとお互いのことを思って生きないとだめだと思えた。
- 仲間ができた。協力してビオトープを作ったことで、自然のためになれた。
- 野帳にまとめたり、自分で実際に森に行行って体験したことなどを考えることで色々  
と知ることができた。
- 人と自然のつながりの大切さが分かった。

#### ④ 保護者アンケート結果



(保護者の感想)

- 今の時点では分からなくても大人になって思い出すことがあると思う。
- 3年間参加し、何かに夢中になる楽しさを学んだようだ。自分の好きな事について調べる、深めることは意味のあることだと感じた3年間だったと思う。
- 自分の思う様に進まない時も、待ったり理由を考えたりできるようになった。
- 森の活動は変化が起きるのに時間のかかる活動だと思うので、ぜひ持続的に活動していただいて、コレンジャー卒業後も自分が活動した場所がどうなったのかを見られる機会を作ってあげてほしい。また、親も見てみたい。

(保護者が感じる子どもの変化)

- 想像力がついた。
- あきる野の自然やその他の身の回りのニュースにも興味を持つようになった。

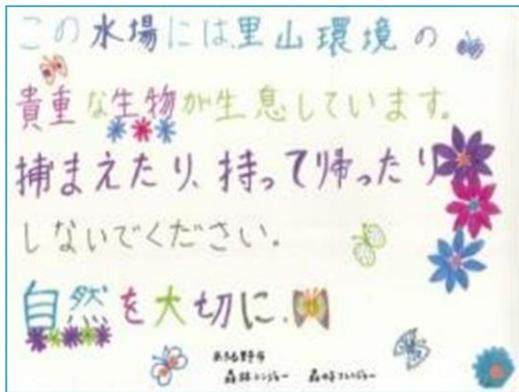
- 学校で急に積極的になったようだ。コレンジャーという特別な居場所のお陰で自信がついたのかも。やろうと決めたことは自分から取り組んで頑張るようになり、頼もしくなった。
- 自分自身で準備ができるようになった。
- 興味のあること、分からないことを自分で調べるようになった。
- 自然を楽しむ気持ちを客観的に伝えられるようになった。

(子から親、周りの人へ)

- 親は全く自然に対する知識を持っていないので色々なことを教えてくれる。
- 親子である野の自然、動物について話す機会が増えた。
- クラスのみんなに森の素晴らしさ、大切さを伝えている。自然が好きで、そのためにどうしたらいいのかと考えている。
- 私たちもレンジャーや子どもから学んだことを少しでも自然に返していければと思う。
- あきる野市に住んでいながら森のこと、生き物のことを知らずに生活していた。子ども自身はもちろんですが、毎回の活動後の子どもからの話、コレンジャー通信などから家族も森や動植物のことを知ることができた。森林はこちらが目を向ければ身近であることに気づいた。

保護者アンケートから、コレンジャーに参加している子どもたちが家族や友人に自然のことやあきる野の素晴らしさを伝えており、子どもたちが起点となって、コレンジャー活動が発展していることが分かりました。

コレンジャーを卒業する子どもたちから、森での活動を続けたいという声が上がったため、年に1～2回同窓会としてコレンジャー卒業生が活動する機会を設けています。また、保護者の方からは、親もできることがあれば協力したい、子どもたちが作ったビオトープを見てみたいという声が上がったため、保護者を対象としたビオトープまでの昔道整備を実施しました。さらに、中学生になってサポートレンジャーとして活動するなど、自ら自然や地域との関わりを続けている卒業生もあり、本市の自然を愛する次世代が着実に育ってくれています。



コレンジャーが作った看板



野帳に記す



動物のレストラン整備



自分で調べる



猟師さんに野生動物の話聞く



野生動物と人の暮らしを守る森を目指して



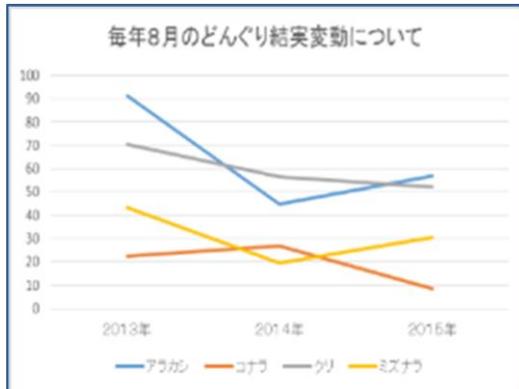
どんぐりの豊凶調査



どんぐりの豊凶調査の結果をまとめる



キウイ狩り



3年続けた調査のまとめ



豊凶調査の結果を踏まえて「私たちにできること」をポスターとして作成し掲示する



水生生物が暮らせるビオトープ作り



保護者の皆さんと  
ビオトープまでの道整備



あきる野市生物多様性シンポジウムでの発表

〈コレンジャーに向けて発行している森の子コレンジャー通信〉



**森の子コレンジャー通信**  
2013. 春号  
発行：森林レンジャーあさる野



2013年5月19日の日曜日、晴れ。  
今年で第3期目となる森の子コレンジャーが、いよいよ始動しました！  
継続参加者9名と新規参加者11名の20名、1年間森林レンジャーと共に活動していきま  
す。始動式には19名のコレンジャー（1名お休み）が暑まり新規参加者には  
コレンジャーの証である帽子を、全てのコレンジャーに野帳とペンを渡しました。

「あなたをコレンジャーとして認定します  
仲間と絆を結び あさる野の自然と心れあい  
学ぶことを目標に 1年間楽しく活動しましょ  
うそして素晴らしい自然を発見し 学び合い 共に守っていきましょう」

コレンジャーとして活動していく1年間、この気持ちを忘れずに自然や地域への情  
いを育んでほしいと思います。  
(かせきちゃん)



**森の中をぞいてみよう** (だいちょう班)

森に入ってから観察してきました。途中で椿の花を観察して、緑色で目立たない花ばかりでした。綺麗な色の花は、虫や鳥を引き付けてまわすこと、目立たない花は、風などで花粉が運ばれ葉がつくことをまわすこと、

森の中でエビネランを撮りました。今では野生のエビネを目にするのは少なく、とても貴重な種類でした。  
左下の楕は、ゆりかのスケッチです。

森のふみ場でシカの足跡を発見しました。  
石膏(せつこう)で足跡(あと)の型を取りました。(左下写真)  
この足跡から親子のシカがいることが分かりました。これまでのレンジャーの調査では、親子のシカということが分かりませんでした。新しい発見でした。




写真写真 Photo by けーけー

**季節の特徴的な動物の観察** (ハブ班)

今回は、あさる野の大人気の夏鳥であるサンコウチョウ、オオムシやキビタキ、また、つゆの季節らしい生き物であるモリアオガエルの観察に出かけました。けいたろう、あん、こうすけ、ひろとほづると一緒に、森や里、かわらめぐつてみました。

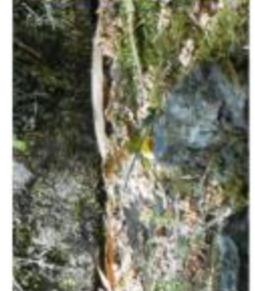
森の中で一時間も静かに過ごしたら、いっしょに遊んでみたが、サンコウチョウの観察に成功！その他、コガラやヤマガラスなども目撃。なま声では、ホトトギスやキビタキなども確認できて、いい鳥観察でした。

その後、森から出て秋川に向かったら、キイロトラカミキリ、ヒメビナガガミキリ、カワガラス、ツチガエルやカシガエルも確認しました。アオガエルは残念ながら、あわただけ見られました。この日のみんなのほうくを眺めながら、最も重要な発見をしようかします。

「今回のつながり」モリアオガエルは、木の深いところには卵を産むと、へびなどのてきがないから、オタマジャクシの数が少なくて生きていける。Byけいたろう」



カシガエルオタマジャクシ(はづき)



アサヒカワトンボ(けいたろう)

## フィールドサインから野生動物の生活を知る (かせちゃん班)



あやか撮影  
(ヤマザクラとニガイチゴの種子が混じる)



かせちゃん班  
しろうこ、ゆうちやん、ゆきお、あやか、りな

野生動物を知る手がかり「フィールドサイン」を探しに行きました。フィールドサインとは、足あとやフン、糞べあとなどの事です。フィールドサインからは、そこに生息する野生動物、その野生動物がどのような生活をしているのかが分かってきます。

長尾黒根(ながけおね)へ向かう途中、しの竹やからでボサボサのけもの糞を歩くと隠れかきと見られる場所やフンを発見！みんなフィールドサイン図かんとしてら合わせて「イジジ」のものとすい理しました。

それから、ネズミやムササビの糞べあとや、サルとテンのフンを見つけました。「テンやサルのフンに糞が混じっている！」その糞の糞を探してみました。すると、ヤマザクラとニガイチゴが糞をつけています。見つけたニガイチゴの糞を食べてみると「甘い香〜い！ニガイチゴの糞を見てみるとフンに混じっていたものとそっくりでした。人間には甘苦い味でも、森に暮らすテンやサルにとっては、大切な食べ物なんです。

調査中には、サルの5〜7頭の群れとそうろう！りなは臭つけるのも早かったね。写真もとれましたね。サルに出会って、フンはサルのもものだろうかという理由がサルのフンだ！という確信に変わりました。サルに出会えたことはとても貴重な体験。しかし、サルに煙や果樹を驚かされて苦んでいる人がいるということも知りまし

た。

## クリの花と昆虫 (ささ班)



6月9日、五柱いつはしら)神社の近くにあるクリの木の花が満開でした。クリの木にはお花とめ花があります。小さな花が集まってふさふさした方が雄花で、1つだけぽつんと咲き、先端がバラバラな形をしているのが雌花です。そうは「白いふさふさわがおいしべ、めしべはアルゴールランプの一番先みたい」と話していました。

雄花をよく観察してみると花粉がたくさんついていて、これを目当てにいろいろな昆虫がやって来ていました。緑色のコアオハナムグリ、黄色と黒のキイトラカミキリ、小型で白黒のシラケトラカミキリ、赤いはねのペニポタルの仲間、調べられないくらいたくさん昆虫を発見しました。後で昆虫を調べるとこの写真が役に立ちました。

昆虫は花粉を奪いながら体は花粉まみれになっています。これがクリにとっても重要なことなのです！なぜなら、昆虫が雄花の花粉を雌花に運んでくれることによって、クリの実ができるからです。しかも、花粉は別の木の雌花に運ばれないと実ができないのです。今回のメンバーはほもか、ひなこ、なつね、そうた、ユーシの5名であらこち歩きまし

## 第6期 森の子コレクターの一日(6月)

6月の活動は、植物・昆虫、野鳥・両生類、森、野生動物(両類)の4班に分かれて調査を行いました。班ごとの活動内容は、担当するレンジャーの専門と個性で決まります。自然も色々、人も色々です。

植物と昆虫の班は、担当するレンジャーの専門と個性で決まります。自然も色々、人も色々です。植物と昆虫の班は、担当するレンジャーの専門と個性で決まります。自然も色々、人も色々です。植物と昆虫の班は、担当するレンジャーの専門と個性で決まります。自然も色々、人も色々です。



(加瀬季)



その後、1年間自分の家で動物を見るクマギの苗木をポットに植え替えました。このクマギは、「自然を昔に戻す念」が実生から育てた苗木です。冬にたまたま、どんぐりの苗作りをお手伝いしたこともあって、コレクターに20苗ください！とお願いとすると「勝手にけよーう！」と喜んでくださっていました。コレクターに戻す念の活動や森のことなど、貴重なお話をいただいた田村さん。ありがとうございました！ 次回の活動は8月です！

コレクターが調査中に撮影した自然(一部)です

けいけ撮影(くさ)



ひなこ撮影(クニポタル)



りな撮影(ニホンザル)



けいたろう撮影(王爺フネがあけた)



「学んだこと、感想」 - コレクターの活動報告書から抜粋 -

「植物・昆虫班(ももか)・・・雄花→実→たわわ→花→雄花・・・」

「森班(ゆりか)・・・エビネがまだ森に生えていて改めて森の環境を守っている」

「野生動物(両類)班(しろうこ)・・・フンを見ると、サルやテンはニガイチゴやヤマザクラの実を食べていた」

「野鳥・両生類班(けいたろう)・・・野鳥や生物を観察することは、とても大変だった」

# 森の子コロレンジャー通信

2013. 夏号  
発行：森林レンジャーあきるの野



## 森の子コロレンジャーの活動

8月の活動は「アラカシ、クリ、コナラ、ミズナラ」の4種に分かれてどんぐりの豊凶調査を行いました。調査地に着きさっそく「クマだな」の説明をレンジャーからうけました。クマだなとは、その名の通りクマが作った巣のこと。ヤマグリの木にできたクマだなは、クマが木に登って糞のついてる枝を折り糞を食べます。その後、枝を自分のおしりにしていき糞が落ちるのです。お腹いっぱいになったクマはその巣の上で産卵をすることもあるそうなんです。道路のすぐそばのクマだな、どうしてこんな所にクマが出てきたのか？という疑問をコロレンジャーに投げかけると「森に食べ物がなからだ！」という事が… (かせちゃん)



クマだな (2012年12月撮影)



ミズナラ類  
なつね  
ひなこ  
はづき  
さっせー



コナラ類  
ゆきお  
ひろむ  
こうすけ  
ばぶう



クリ類  
けいたろう  
しょうご  
えうた  
たいちろう



アラカシ類  
ゆりか  
あやか  
りな  
かせ

## 第3期 森の子コロレンジャーの一日 (8月)

8月の活動は「どんぐりの豊凶調査」を行いました。今年から、レンジャーがどんぐりの豊凶状況を補助して調査していきますが、そのための基礎データとなる重要なものです。調査方法は、30秒以内で目にするどんぐりをカウントでカウントし、得られたカウント数を平均しました。"カウントすることが楽しい！"子どもも楽しくする調査でしたが、栗が栗の赤褐色部分に3〜6個ほどまとまっていること、はっぱの産卵、栗はまだ緑色で小さいなどの発見がありました。

レンジャーからこの調査の意義、多様な野生動物が暮らす多様な野の森のことなどを聞いた後は、それぞれ興味をもったことや疑問に思うことを調べ活動報告書にまとめました。

次回は10月、どんぐりはどうなったのか？もう一度調査です！

### どんぐり豊凶調査について

鹿分立派な大きさに生長したどんぐりですが、このまま無事に熟す訳ではありません。若いどんぐりはムササビの哺乳食に食べられ、8月中旬からチョッキリやソノムシの仲間(寄生)が繁殖し部面に落ちます。この間とされたどんぐりも森の樹木に利用されるでしょう。こうして森でどんぐりが熟す前か多く利用者がいて、無事に熟したどんぐりはツキノクグマやシカ、イノシシ、サルなど多くの野生動物に利用されています。一方で、一部の野生動物の行食する習性を利用して種まきをしてもらっています。



野鳥が地面に落ちたムササビ

ドングリは毎ごとに豊凶状況がバラバラで、ドングリが自作した昨年の産は、ツキノクグマの目撃が相次ぎ、キウイ熊や人鹿のゴミ箱を築らすなどの被害があまりました。どんぐりの豊凶は野生動物が人里へ下りてくることと関係しているかもしれない…年間に豊凶が分かれば、人間の行動に注意喚起することができます。森で食物が得られない野生動物に「人間の領域に出てくると危ないぞ！」と認識してもらうことは難しいかもしれませんが、私たち人間の生きを守るために「未収獲の採集を依頼する。」「ゴミ箱や生ごみなどの野生動物を人里へ誘引する物を野外に設置しない。」という意識を伝えることはできると思います。そして、その行動が野生動物を守ることに役立つのではないのでしょうか。

(加藤洋)



栗割りにカウント中

**活動報告書 (抜粋)**

8月10日の活動は、レンジャーの指導のもと、どんぐりの豊凶調査を行いました。最初は、どんぐりの数を数えるのが大変でしたが、慣れてくると、30秒以内で目にするどんぐりを数えることができました。また、栗の赤褐色部分に3〜6個ほどまとまっていること、はっぱの産卵、栗はまだ緑色で小さいなどの発見がありました。

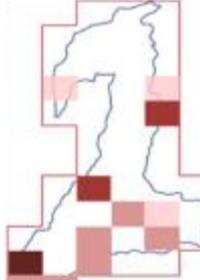
レンジャーからこの調査の意義、多様な野生動物が暮らす多様な野の森のことなどを聞いた後は、それぞれ興味をもったことや疑問に思うことを調べ活動報告書にまとめました。

次回は10月、どんぐりはどうなったのか？もう一度調査です！

**今日の感想**

どんぐりの豊凶調査は、とても面白かったです。また、自然の生態について学ぶことができました。

## どんぐり豊凶状況 (2013. 8月現在)



得られたカウント数を平均する調査を毎年実施していきます。この表は、森のどんぐりを自然で判断しメッシュで表したものです。

豊凶…樹冠全体に豊凶に結果  
豊凶…樹冠全体に豊凶に結果、又一部で豊凶に結果  
不作…ほぼ完全に結果

結果

豊凶…ほぼ完全に結果

不作…ほぼ完全に結果

結果

豊凶…ほぼ完全に結果

不作…ほぼ完全に結果

結果



水世が落ちてきました

落ちてきたどんぐりは、全体の半分ほどは、水世が落ちてきました。水世が落ちてきたのは、水世が落ちてきたからです。水世が落ちてきたのは、水世が落ちてきたからです。

落ちてきたどんぐりは、全体の半分ほどは、水世が落ちてきました。水世が落ちてきたのは、水世が落ちてきたからです。水世が落ちてきたのは、水世が落ちてきたからです。



動物のレストラン (かせちゃん班)

2期のコレンジャーと共に作った森の動物のレストラン、食べ物の少ない冬に葉をつけるフユイチゴやジャノヒゲ、ヤブランを種蒔したレストランでしたが、動物が好まない葉をつけるヤブミヨウガが侵入したので冬に向けて整備を行いました。ももかが、「別るとまた生えてくるんだから撤こう！」と言い、「そうだ、そうだ！」とみんなでヤブミヨウガを引っっこ抜きました。獣害路の草刈りはひろむろが一人で頑張りました。ヤブミヨウガをぬいたレストランには、フユイチゴやジャノヒゲが元気に成長しているものもあり、わすかでした。ヤブランが葉をつけていました。やったー！冬にはきれいな黒葉色になり、森に暮らすタヌキの大切な食べ物となります。



バツタ (さっさ班)



捕まえたバツタなどの紹介

秋が深まった10月13日、午後からけ一けとはづきとで草原の昆虫観察に出かけました。秋の草原の昆虫といえばバツタ、コオロギ、キリギリスの仲間となり、草原の中を歩きながら捕獲(ほかく)しながらの調査となりました。森の近くの運った草原にはコオロギの仲間が多く、乾燥(かんそう)した学校周りの草原にはバツタの仲間が多いことが実際に確認してみても分かったことです。土が湿っているかどうかでそこに暮らす草の種類の違ってくる。そして、昆虫はそれぞれ好み草の草のある環境(かんきよう)を好みます。け一けは、感覚的(かんかくてき)にそのことを理解(りかい)しているようでした。



け一け、はづき



12月のコレンジャーは山歩き

3期コレンジャーの活動では初めての長い山歩きとなりました。出発の前に、1日を共にする「地図」をみんなで学びました。等高線(とうこうせん)、木の種類、神社やお寺の記号、電線など、地図にはたくさんの情報がつまっていることを学びました。地図が読めれば山歩きが自分ごとになり世界が広がります。今回の山歩きの目的は、地図を知ることと森林レンジャーの仕事を経験することです。それから、私たちレンジャーも森を歩けば必ずと言っていいほど毎回新しい発見があります。コレンジャーには森歩きの中で、レンジャーから自然のことを教わるだけでなく、自分自身で何かを見つけて目を覚ましてほしい...これが一番重要かもしれません。そんなことを考えながら、さあ出発！途中、現在地を地図から読み解きながら出会う発見をみんなで共有し進みました。発見の中でも一番のナゾは、運上(うんじょう)にけものしっぽが落ちていたこと...なぜだれどろして??しっぽをかこんで、レンジャーが話しかけました。しっぽには柔らかくて暖かそうなお毛が覆(おほ)われ、長さは約20センチ。周りにはその他の種(こんせ)きはありません。テングのしっぽだと考えられるが、なぜしっぽだけ残されたのか?仲間同士のケンカか、クマタカなどの捕食者(ほしよくしゃ)におそわれたのか、結局ナゾはナゾのまま...森には人間が想像(さくご)するしかない不思議がたくさんあります。答えを知ることよりも今のコレンジャーに大切なのは「森に暮らす生き物の気持ちになって考えてみる」ということだと思います。コレンジャーによって、レンジャーのしっぽが誰かいいきつかけになったのではないのでしょうか?

- ★ 捕頭師
- ★★ 16:00山歩きおしまい
- ★ デンジャーからの質問 (け一けの形)







**Morinoko CORANGER**  
あきる野

# 森の子コレンジャー通信

2014. 春、初夏号  
発行：森林レンジャー あきる野



2014年5月18日の日曜日、晴れ。  
今年で第4期目となる森の子コレンジャーが開始しました！  
継続参加者各名と新規参加者12名の20名。1年間森林レンジャーと共に活動していきます。始動式では、新規参加者にコレンジャーの証である帽子を、全員のコレンジャーに野帳とペンを渡しました。  
継続して参加しているコレンジャーには、レンジャーや自然から教わったことをリレーテークとして新しいメンバーに伝えてほしい、自分が興味のあることを進言してほしいと伝えました。新しいメンバーには、恥ずかしがらずにレンジャーやリーダーに話しかけて1年間を大切に過ごしてほしい、と話しました。

「あなたもコレンジャーとして認定します  
仲間と絆を結び あきる野の自然と小沢あい  
学ぶことを目標に 1年間楽しく活動しましょう  
そして素晴らしい自然を発見し 学び合おう」

コレンジャーとして活動していく1年間、あきる野を心に自然や地域への想いを仲間と共に育んでほしいと思います。



7月 6月のほりかえで五日市高校の自然を知る

7月の活動は、6月の大雨で中止となったふりかえの活動をを行いました。6月に活動できなかったのはとても残念ですが、「7月ならでは」の自然を探しに隊長・パプロ・かせチームに分かれて高へでかけました。隊長(きのこ)チームはさっそく帰へ出発です！パプロ(鳥)・かせ(動物)チームは、出発前に高







10月 畑(縣長)チーム: ニコウチ、5ひら、なぎさ



森につながる畑で、畑を荒らす動物の調査

野生動物は、エサを探して森から出てきます。1年間で見てみると森と畑に畑を荒らす。特に秋は、畑の収穫と重なり、農家の被害は大きなものになります。  
この日は、刈りを高い荒らした二ホンザルの痕跡、畑地にイノシシの足跡などを確認!

幸運にも、畑で仕事をしている人に話が聞けました。畑で悪さをする動物は、二ホンザル、イノシシ、アナグマ、タヌキなどと変わりました。特に、イノシシはジャガイモを収穫直前にすべて食べられる状態にあったこと、また、たぐさんの犬は二ホンザルに引き寄せられて、一口だけじつとしたものが散らしていったなど、直接話が聞けたこと、とても良い経験になりました。

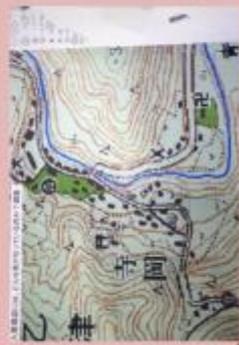
また、畑の作物の話では、サトイモとヤツガシラの違いは、葉柄(葉を支えている茎)が赤いもの、緑のものの違いなどを教わりました。(みんな、覚えていくかな?)

畑が道取りのお手伝いがしたいと言うと、もう秋で、今はあまり道取りをしないが、畑にお手伝いしてもらえらるととても助かると言われました。  
最後に、ちひろとなぎさの好物のハセリを一葉づつもらって帰りました。

10月 畑(初世)チーム: ひら、あやめ、ひなこ、ぬぐち

2年前の冬にクマが出た寺岡地区。調査でどなたのなりが良くないかわかり、人里に「野生動物が食べる家」があるのか調査にでかけました。また、葉があれば収穫を呼びかけよう！と発表しましたが、今年ばかりがどこも不作で買ったカキはザルに食べられてしまったり家が多かったこと、キウイは「しも」がおりてから収穫すること、畑をイノシシやヤルに荒らされることなどを地域の方に聞くことが出来ました。キウイの取れ具合も手伝わりましたね。

今年の寺岡のこの時期は、けものが食べるような果実はないものの、畑には冬野菜が育っており電気のさくをして荒らされないようにしていました。



島船(ババロ)チーム: けいけい、ゆきお、ユウジ

今回も島の観察に出かけました。7月の観察会と違って、森林帯の野間上にはなく、大空を飛ぶ「大鷲」に出会うことを期待して、長島野間の見晴らしのいい場所まで足を運ばへ!

「大物」とは夏鳥類のことです。珠彦やワラ、夏鳥のサンバやハチアマの遊りは終わっています。10月中旬に会える可能性が高い時期です。ミヤオオタカに会える可能性が高い時期です。また、最も重大な自然標は周辺の山でよく出没する海の鳥類がクマカマです。

晴れて天気はもうこうだった。観察時間は1時間半あまり。そして、観察開始から10分を経過した時点で、速くはクマカマが豊場!

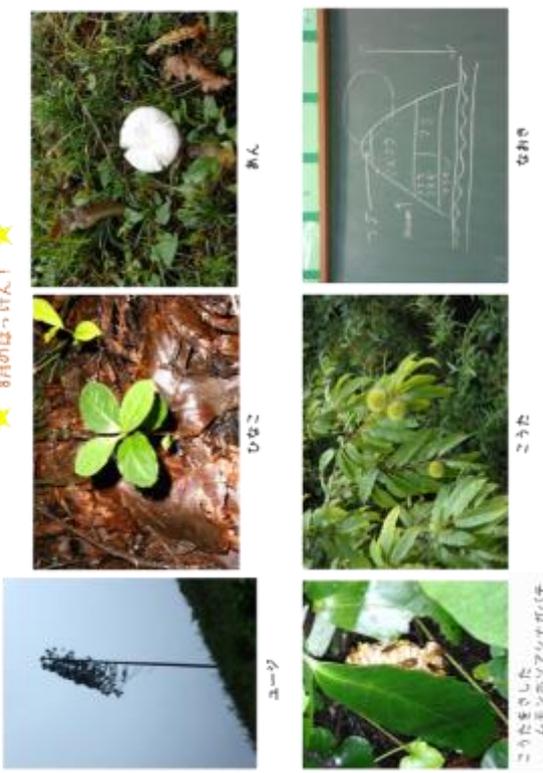
観察終了後見ていると小さかったのですが、戻っているところを急ぎ足取り観察してきました。その後、もう少し近くで2回も取れてくれたのでラッキーでした。また、手取通りノリスリヤトでも観察できました。観察があったので残念でしたが、満足できる観察会でした。

他に、たくさんを観察するカキアタや、鳴きおくとが足ついでにクマカマの鳥類など、いろいろな発見がありました。



(上)確認したクマカマの成長個体(読み上げでオネ(オネト))  
(下)長島野間の風景。10月中旬から紅葉が美しい。

★ 8月のはっけん! ★



こうたをのした。ムモンカのアサギガハ(牛)



# 森の子コレクション通信

2014. 秋、冬号  
発行：森林レンジャーあきる野

11月はあきる野と東横と栗山と



11月の活動は、あきる野市「花とアートの里」深沢の森に入りました。深沢地区は、あるな清流のあじさい山をはじめ、四季を通して花が楽しめる里として地域の方や深沢花の会が手入れをしているとても美しい里です。5年前のレンジャー活動で結成したシャワザの山の下の月形作業は毎年開催で続けています。また、木カシ（ウラジロガシ）と木スギの巨木に出会える里です。

その深沢で、「人が歩かなくなった山道」「金比羅屋敷」「深沢地区と地蔵で整備して復活させた畑田屋敷」と地区をぐるっと囲むような森歩きを行いました。スタートからお昼まであきる野が続き、4つ足のけもの活動は、あきる野市「花とアートの里」深沢の森に入りました。深沢地区は、あるな清流のあじさい山をはじめ、四季を通して花が楽しめる里として地域の方や深沢花の会が手入れをしているとても美しい里です。5年前のレンジャー活動で結成したシャワザの山の下の月形作業は毎年開催で続けています。また、木カシ（ウラジロガシ）と木スギの巨木に出会える里です。

その深沢で、「人が歩かなくなった山道」「金比羅屋敷」「深沢地区と地蔵で整備して復活させた畑田屋敷」と地区をぐるっと囲むような森歩きを行いました。スタートからお昼まであきる野が続き、4つ足のけもの活動は、あきる野市「花とアートの里」深沢の森に入りました。深沢地区は、あるな清流のあじさい山をはじめ、四季を通して花が楽しめる里として地域の方や深沢花の会が手入れをしているとても美しい里です。5年前のレンジャー活動で結成したシャワザの山の下の月形作業は毎年開催で続けています。また、木カシ（ウラジロガシ）と木スギの巨木に出会える里です。



楽しいお弁当



お弁当



わっせわっせ



笑顔で森歩き！



どこにいても空を見る

12月はピオトーブ



12月の活動はピオトーブ作りでした。朝、バブロの「ピオトーブは命が生まれてつながっていく場所」だという題のスライドを見た後、実際にピオトーブの場所へ行きました。

現場では3期が作った水堀を見て、これから作るピオトーブのイメージをバブロの話をもとにふくらませ、早速作業に取りかかります。

木をきる人、土どめを作る人、池をほる人、階段を作る人、庭物を建てる人、野生動物の食べ物となる庭物を移植する人、水堀を作る人…野生動物と自分のために、みんなで協力しながら自分が選んだ作業をすこ



すはお水をやっていく谷津田。歩いてみると、なんと11段もあります。その付近には新築された家がいくつかあったりと、人が生きていく上でおおらかな場所だったことがわかります。

- 1日目は
- 3期コレンジャーで整備しました。
- 4期では
- 2、3期目の整備を行います。



賑わいは1月!

アニマルサンクチュアリ活動〜キウイ狩り〜

秋から春にかけて、山里では、カキやウリ、キウイなどの果実、それから畑の作物やゴミなどをねらってサル、イノシシ、クマなどが鳥から出てきます。人は食べ物を命を守るために野生動物を高くおいやり、時には命をうばいます。重しいけれどこれが森と人が生きてきたあふれる野の現実。人の命は種々な命のものに成りまわっているけれど、野生動物の命をうばい続けていいの？人間もできることをやろう!ということ。お月はどんなぐり調査、10月には「ゴミは出してしまおう、果実は収穫しましょう」などの注意喚起がスタート。作り小宮ら自治会に提示しました。今回は、3年前クマが出てきた場所です。「山里の果実は責任をもって収穫すること、野生動物も人も守ることにつながる。」と、キウイ狩りのお手伝いをしました。収穫したキウイは神さまさんのご遺棄で仲良く分けました(´▽`)。米を切らなくても、水を履えなくてもお月もできる「野生動物と人の命を守る行動」を知る機会となりました。

(かせ)

# 森の子コレクション通信

2014.冬、2015.春号  
発行：森林レンジャーあきる野



ピオトープ作り～冬～



1月の活動は、12月の続き「ピオトープ」作り！  
今回で完成を目指します。12月のピオトープの後、  
パアロとかはちゃんで機子を見に行きました。その時、  
水筒がもうまく機能していませんでした。水の容量が  
減っていったので、今回は水筒の大切さの説明をうけて  
やり直しました。それから、池を深く掘る池と森の野  
備をする池に分かれて作業しました。安全に作業が進



むように、森の整備で出た米を利用して「さく」を作  
りました。  
みんなが作業に集中している時「カエル  
だ！」というだけかの声が、冬服中のカエル、起こ  
してごめんね。石の下にちゃんど隠れて作業再開！  
モクモクと、わっせわっせ、足やはー・・・  
みんなでピオトープ完成させるぞ～！

ピオトープ完成！



沖ほりとまごの隊、切った木を利用して「さく」作  
り隊。本の名前を聞くと名前を変えつけている隊と、みんなが  
手分けしてついに冬期ピオトープが完成しました！  
森の生き物に利用してもらえませんか？



沖んな森の中、自然のために人のために、ありがと  
う！おつかれさまでした！みんなと作ったピオトープ、  
森の生き物に利用してもらえませんか？

冬期最後の活動



最後の活動は、雨。  
雨でも森へ出陣しました。ピオトープの池は、まだ野生動  
物で歩かずみんながっかり。でも、森林レンジャーが  
事前に設置しておいたセンサーカメラを回収した後は、ピオ  
トープまでの道でできるはらひで整備しました。  
学校に送って画像を確認したけど残念！今日の自分たちの  
準備だけでした。  
その後、1年間の記録をみんなで見えて、自分が印象に残って  
いることを発表して、道具や靴のそろじを、1年生し  
めくくりました。  
※4月2日、あぐみのお母さんもアズマヒキガエルの子を  
確認したそうです！やったわー！

第4期の子コレンジャー活動終了!



「自然が好き」という共通の想いをもった市内の子ども20人で結成した第4期コレンジャーと森林レンジャーの集合写真。年8回の活動でしたが、3月にはいい笑顔で終了することができました!

第4期の活動は、自然を知る要・森守り、どんぐり量回調査を通しての野生動物と人の関わりを学び、協力して自然のためにピクトグラフ作りをするなど、知るだけの活動に留まらず行動することができました。この1年で、それぞれの自然への愛情が少しも膨らんでいたらいいな・・・それよりも何よりも、コレンジャーでしか出会えなかった仲間とこれからも仲良く! 1年間みんなありがとう、また会おうね!



最後の活動はピクトグラフまでの道を整備しました。みんなのおかげで多くの人や、市内小学校体協学習会で、私たちの作業を安全に案内することができましたよ! ありがとう(´▽`)

自然を喜ぶに及す会 炭焼き作業は苗木



「今回の炭は、うまくいったな。」ほっと胸をなで下ろしながら炭焼き部の皆さんが笑顔で焼きあがった炭を選別し、商品となる炭を製造部に届けます。焼きあがった炭は煮沸殺菌品に仕上げ、潮音の湯などの店舗に並びます。

火と煙と相談しながら朝早くから夜遅くまで炭を焼く。それでも、最後に薪を聞かせてみないとわからない。本当に大変な仕事です。作業の時は、野菜の作り方や昔の話など勉強になることを教えあい、みんなで笑いながら作業を楽しんでやっています。炭を焼くまでには、竹を山から採ってきて薪断し、ナタで割って節をとり棄にするという作業もあり、會員の団結力と熱意と笑いと胸がなげれば炭は店頭には出ないんですわ。

第2期コレンジャーの同窓会で植樹する苗木は、育苗部が實生から育てたものを頂きました。懐かしい陽がぶれの2期コレンジャーと、クマのためのクリを大切に奥山へ植えてきます。僕本さんありがとうごさいます!(加瀬清)

1年間 ご苦労様でした。まだまだ森には不思議がいっぱいあります。これからも沢山の森の不思議を探してください。



→ 奥山で人が入り寂を作っていた証。ケヤキが何度も伐られ、新しく芽を伸ばして貰った姿。



1年間  
ありがとうとおつかれ!!  
(ハハロ)

小さな飛鼠の連続とやりたいたいことを自分で決めてやる勇氣!を心に。かせちゃんも大切にしていこうと思えます。

コレンジャーでの1年がみんなと森の今と未来につながっていきましように・・・みんな、ありがとう! かせちゃん



絵:小池耕田(動物画家)「クマが樹に巣をとり、小池耕田」より

森林レンジャーあきる野新開3月号p11,57より



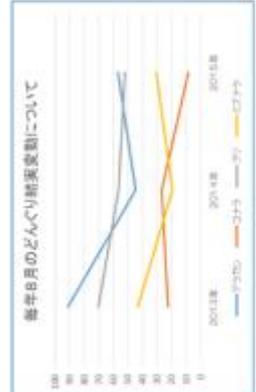


# 森の子コレクション通信

2015. 8、9月号  
発行：森林レンジャーあきる野



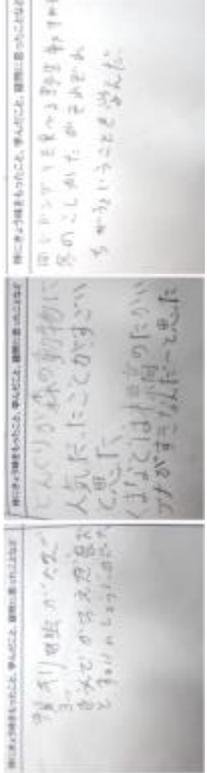
8月と9月はどんぐり調査



8月の活動は、夏休み中ということもあってか11名と少なく、9月の活動でも14名でした。8月は、調査の後、結果をまとめグラフに記録しました。9月には、新築コレクションと豊田調査を希望するリーダーと一緒に、8月からの変化、調査3年分の変化を確認することができました。あやか、めぐみ、ひなた、もか、わかほ、9月の調査の森どんぐりについてより深く学び、自然のためにできることをポスターにしてみました。このポスターは小宮地区6自治会の掲示版にはっています！



9月の活動報告書より抜粋しました！



8月 どんぐり調査のあとは3チームに分かれて森で活動しました。





# 森の子コレンジャー通信

2015.11月、2016.1月号  
発行：森林レンジャー あきる野



11月は地図を持って山歩き



11月の活動は雨天延期となり、延期日も雨予報・・・高尾川尾根の予定を金比羅山周辺の山中歩きに変更しました。  
高尾川尾根は残念でしたが、身近な山をゆっくり地図を持って歩ける絶好の機会です。

出発前は地図のお勉強、等高線や記号があることを伝えました。等高線が作り出す形や幅の大小で地形が想像できるようになれば、自分たちが歩くルートを選ぶことができたり、装備の準備が出来ます。今回は、その最初の一手。

地図とコンパスを持って、目的地の方角を定め、これから歩くルートと地図で確認しながら進みました。シンジャーは後ろから見守り、時にはサポートするだけです。くわしくは「かずや新聞」をご覧ください。



下山後、空はいいお天気になりました

## 11月活動風景



地図を読み目的出を指す



地図を持つといつもと違う自然と出会う



野生動物の巣跡「フン」を発見



ソメイヨシノを植らしていたナラタケ



地図を確認しながら自分たちで決めてみんまで進む



金比羅山周辺からの見晴らし スカイツリーも見えた



地図が楽しくなくなったみなさんが11月の活動をしました

1日はピオトーブ「多様な野生生物が暮らす環境」をつくろう！」



お話が興味深い人があふりがじょう

12月の活動が雨天中止となり、2ヶ月ぶりのコレンジャー活動。新年のあいだでつづきをした後「かすや新聞」を紹介してもらい、パブロから「ピオトーブとは何か」や今日の活動の目的などの説明がありました。「水場から生まれる命の野生生物の命を支え、多様な自然を作っている。だから水場と水生生物はとっても重要だ。」「水は命のはじまり」というパブロの言葉がピオトーブのことを初めて聞く子どもたちにも響いたようでした。説明の後、さっそく準備に取りかかりお話を食べ

てから道具をかついで帰宅へ出発です！



目的は5分ほど前まで谷津田だったところで。

谷津田って？

昔、山間地域に住む人々の生活は、山の谷に集まる“水”を利用して作られた谷津田と呼ばれる田んぼによって支えられていました。現在のあき野では、人に管理されぬまま荒れ放題になってしまった谷津田ばかり…

当然と書えは当然かもしれないませんが、山の中に道具をかついで行って、手作業でせまい田んぼにお米を育てることは、現代の私たちには想像もつかない苦勞ですよね。しかも谷津田周辺の森も人に利用されないため木は成長し続け、米の生育に重要な水障の水が入りません。今では谷津田とはまったたく違う環境が作られています。

人が利用していた場所に移らしてきた生き物たちの未来



4期が整備した池の前で  
これから始まる自分たちのピオトーブを整備する



整備前の谷津田（2013年撮影）

谷津田として利用されていた頃は、その水場を利用して多くの生き物たちが暮らし

ていたはずですが、  
しかし今、その谷津田は長年にわたる農の影響でしようか、泥が堆積しイノシシのタタ場となっていました。タタ場はクンシシによって駆け回って体に着いた寄生虫を取るための重要な場所ですが、コレンジャー活動ではタタ場をたくさんの水生物が暮らせる深さのある池に変え、水道を作ることで、周りの森にも多様な生きものが暮らせる環境を目指して、3期コレンジャーから整備を続けてきました。

5期では、その整備の続きと谷津田への普通整備が新たに加わります。目的は、蓄く池、森、道の3チームに分かれて整備を開始しました。



池チームは、4期が整備した2段目の小さな池をより大きくするために利用するゼンショウという水蓮の移植を行いました。

池を整備する前に水生生物を調査させつつ、どんな生物がいるのか調査しました。オニヤンマやミルヤンマのヤゴ、ヤマアカザエビ、トビケラの幼虫など、多くの水生生物が卵や幼虫を利用していることがわかりました。道チームが「モリアオガエビ発見！」池の近くに引っこしらうことになりました。



森チームは、コレンジャー0期が12月に伐採・判定したアオキ、チヤノキを移植させた後、水にはなっても葉を落とさず日かげを作っているヤブツバキを切りました。日が入ることで、土に腐っている種子が芽を出し多種多様な森を作り、多様な生き物たちが暮らしやすくなるように木を切りました。

切ったヤブツバキは、ピオトーブの種として利用するだけではなく、自分たちの腐葉土や堆肥の原料として大切に使う予定です。最後に、1期の枝や竹葉のまっすぐな枝を使って、危険箇所に入入り禁止の看板を取りつけました。



道チームは、昔の人が生活するために（田畑仕事、薪ひろい、炭焼きなど）使っていた普通道を復活させるため、かつては石積だったであろう所の積れりしてしまつた石の道具を使って動かして組みなおして石積を再生したり、新道が崩れて狭く空つてしまつた道を広げ歩らにならしたりして歩きやすくしました。休憩できる場所も作りました。これで、みんなが安全に道具を持って歩くことができます！

作業を終えた後は活動報告書をまとめ、それぞれチームの活動を発表し、みんなで大発表しました。大人も子どもも褒められたけれど発表した1日が盛りまりました。次回は2月、引き続きピオトーブ整備！！

# 森の子コレンジャー通信

2016.2月、3月号  
発行：森林レンジャーあきる野



## 2月の活動

1月に引き続き焼きピオトーブ整備です。1月の雪でたくさん木が折れてしまい、どのチームもまずは倒木処理からなりました。その後、森子チームは倒木処理や森の整備を続けながら、3月に自分たちが工作で使う木をまとめました。池子チームは二段目の池を広くする作業と倒木を伐って土どめを設置しました。道子チームは、倒木処理の備くすれてしまった道の補修をしました。

倒木が多く、どのチームもできる範囲での作業となりましたが、どのチームもやりきった笑顔でした。5期のピオトーブの普通整備はおしまい。今後、生き物たちが利用してくれることを願って・・・みんなで「やったぞー！」



池子チーム (作業に集中でカメラに気づきません)



道子チーム



森子チーム



## 3月終了式



原健司



① 2月に切り出し距離させておいたヤブツバキを運ぶ。



④ 小たまして待つ。



② 葉に入る穴の大きさに切る。



⑤ 空気をとおくる。



③ 葉にすき間を作らないように切をつめる。



⑥ 火をつける。

終了式の朝、毎回恒例となった「かずや新聞」紹介の後、樹陰に集まって、今日の目的は「ピオトーブ整備で切った木を使う」。最初は、「切った後、どうやら家が壊れるのか」というたいちやうの説明の後、樹陰の作業をみんなで行い家になるまでじっくり待ちます。その間、鳥の騒ぎ、工作、原健司の3つの話から自分のやりたいことを選び、それぞれ通しました。

午後は1年間のふりかえりを行いました。保護者の方をピオトーブに案内しました。森や整備のようすを紹介したのですが、案内してくる子が少なかったのは、仲間とまだまだ遊びたかったからでしょうか・・・

終了式ではそれぞれ1年の学びを森の子コレンジャーの証であるバッジを授け取りました。樹は残念ながら大成功とはいきませんでした。でも木を少しずつ持ち帰ることができました。何かに使ってくれるといいな。

今年回と少ない活動でしたが、最後にはみんなとても仲良くなりましたね。みんなみんなの真ん中には「自然が母」という共通の気持ちがあることを、小人と感じたい一日でした。

みんな1年間ありがとう！

3月夜の森

10月の延期として「夜の森を体験する」活動を行いました。これまでのコレンジャーを見ていて、5期のおんななら夜の森に連れて行けるとコレンジャーで判断しての活動です。出発前には、夜の森に入るにあたって「野生動物」「自分たちの行動」について争んでから日灼山の山道へ向かいました。



→山頂までのと申「トウキョウカン ショウクオオ」の甲のうを紹介。産卵する環境や卵のうの中の赤ちゃんを見ることができました。



「かずやから6年生へ感謝の気持ちを出した贈り物。『自然しおり』一つ一ついいねいを書かれています。



→暗くなる前に夕食を静かにとりました。

ムササビ

夕食をとってから、だれも(?)音を立てずに1時間以上だじとしていました。野鳥の声がやむとどこからカカエルの声がしていました。音さはたえながら、事前にバプロが設置したライトの所をじっと見つめ続けていると……ムササビが出現！ 誰一人騒がずじっと観察していました。しばらくして風が吹き始めると、それを待っていたかのようにムササビは姿を消しました。

「夜の森におじゃましている」という気持ちで静かに下山するみんなの背中がライトに照らされていました。



この活動が最後の活動でした。コレンジャーそれぞれ顔をみてみると、天気と都合が合わなかったら5期ですが、これが最後の活動でよかったのかなとかせちやんは感じました。ムササビが暮らす環境や行動を少し知る「自分の身体と心で感じた体験」となったのではないのでしょうか。

3月 関係者のみなさんと夏備!



夜の森活動の日。有志の保護者の方とリーダーで整備を行いました。みんなの手が知わった万沢の音とどろどろとアーンへの通る森路の完成！ご協力いただいた皆さま、お忙しい中ありがとうございました！このルートは今年、市西小学校の体験学習で利用していきます！まだまだ道の整備も続きますよ～

森林レンジャーからみんなへ

<p>森はみんなの生活を支えています。これからは森を大切にたいちよう</p>	<p>みんな！ありがとう。おつかれさま～！！バプロ(0v0)</p>	<p>自然の中でみんなと笑い笑直し汗を流したこと。かせちやんにとって大切な思い出です。ありがとう！！</p>

## 2-3 講演・研修

### ○ 講演

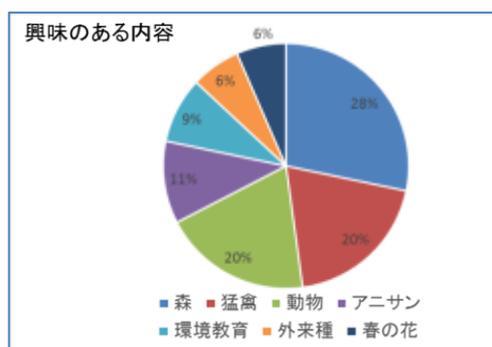
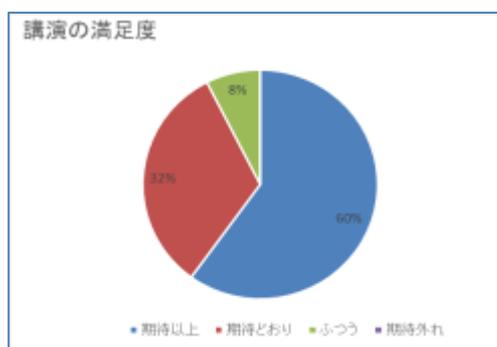
日 時： 平成25年9月21日（土）10：00－12：00

テーマ： 「森への誘い～森林レンジャーが見てきたあきる野の現状とその未来へ」

目 的： レンジャーの活動報告を踏まえ、あきる野の自然の現状とその未来を考える

参加者： 40人（市内外在住）

内 容： レンジャーの活動紹介と、各レンジャーがこれまでの活動で見えてきた本市の素晴らしい自然の現状と課題について説明しました。また、これらを踏まえてレンジャーが取り組む活動（調査、整備、環境教育）と新たに始動した「野生動物と人の共存を目指した取組（アニマルサンクチュアリ活動）」の理解と参加の呼びかけを行いました。



### ○ 研修

日 時： 平成25年11月30日（日）9：00－16：00

テーマ： 「野生動物と人の境界を見る」

目 的： 大型哺乳類の生息痕跡と人間活動の接点を考える

実施者： 杉野、パプロ

参加者： 14人（東京都山岳連盟、環境委員会）

内 容： ツキノワグマのクマ剥ぎ、ニホンジカの角研ぎ跡やねぐら、カモシカの角研ぎ跡を確認しながら森を歩きました。参加者からは、「これまで奥山などで目撃してきた「皮剥ぎ」の痕跡が区別できるようになった」との感想がありました。その他にも、「痕跡が確認された場所には、集落やハイキングコースなどが近くにあり、野生動物ではなく人が利用する場所と思ったが、一歩横の枝尾根に入れば人との接触もなく大型哺乳類であるシカやクマが静かに生息していたことに驚くとともに、シカやクマの生息域では林業被害が起きてしまうことを理解できた」との感想もありました。このことから、本研修は、人と自然の共存について考えるきっかけの場となりました。

## 2-4 地域との協働ツアー

### ○ 鈴木さんと歩く～謎のグミ御前への道～



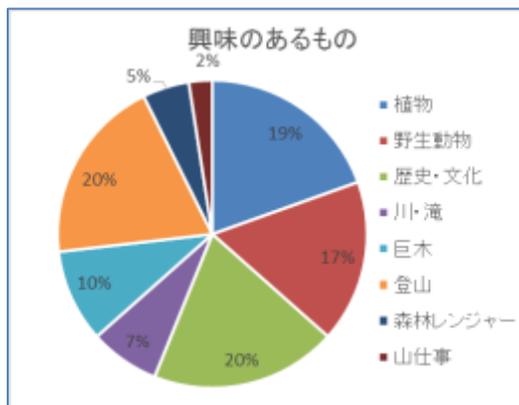
日 時： 平成25年11月10日（日）8：30～15：10

目 的： あきる野の宝（自然、人）を広く紹介し、自然との共存について考える

実施者： サポートレンジャー鈴木さん、加瀬澤、パブロ、杉野

参加者： 12人（悪天候が予想されたため、当日キャンセル8人）

内 容： グミ御前にまつわる歴史を鈴木さんが、調査を踏まえた自然の状況をレンジャーが解説し、昔の森と人、森に暮らすけもの生活を想像するツアーを実施しました。最後に、切り捨て間伐の材で杉野隊長が以前作成したログベンチに座り、人と自然との関わりを見つめ直す振り返りを行いました。ツアーを終えて、参加者からは、「レンジャーの自然解説だけでなく、地域住民が自身で調べている歴史を解説してもらうことで、自然と人の関わりを身近なものとして考えるきっかけになった」という感想がありました。



○ 森と人とけものこと～自然を昔に戻す会を訪ねて～



日 時： 平成25年11月17日（日）8：30－15：30

目 的： あきる野の宝（自然、人）を広く紹介し、自然との共存について考える

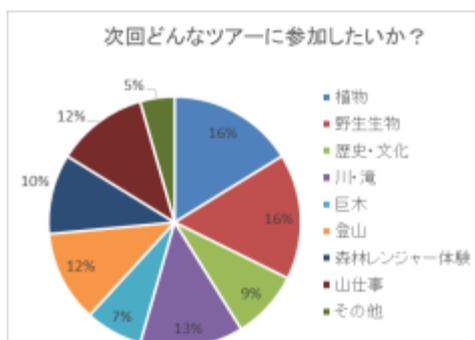
実施者： 自然を昔に戻す会の皆さん17人（炭焼き、苗の移植指導、活動紹介）  
加瀬澤、パプロ、杉野

参加者： 18人（市内外在住）

内 容： レンジャーからは、森や野生動物の解説を行いました。また、次世代のために様々な活動をしてきた「自然を昔に戻す会」の皆さんからは、取組の目的やそこに込められた想いが伝えられ、さらに、取組（竹炭焼き）を体験する機会が提供されました。こうした一連の活動を通じて、「体験から具体的な行動へ」つながるツアーを実施することができました。

午前はレンジャーが森を案内し、人が作った針葉樹の「森」と「家」が隣接していることで、野生動物と人の生活域が曖昧になっている問題を伝えました。続いて、自然を昔に戻す会が日陰対策として、人家に近い針葉樹の一部を伐採し、新たに広葉樹を植えた森を見学しました。午後は自然を昔に戻す会を訪ねて、竹炭焼きの見学と体験を行いました。

自然について知るだけでなく、汗を流す作業を体験してもらうことで、「自然と人の共存」について自分のこととして感じてもらうきっかけの場となったようでした。参加者からは、「住んでいても知らなかったことを知る貴重な体験ができた、身近なことで自然のために何か行動していきたい」という感想がありました。



○ 地域と協働の道を歩く～春の高尾から網代へ～



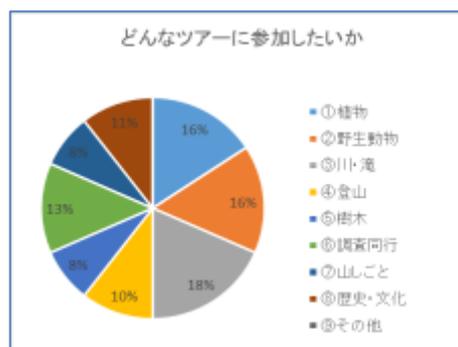
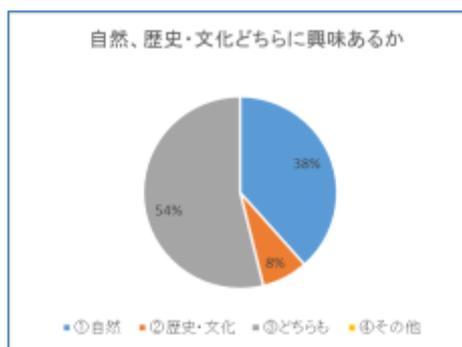
日 時： 平成27年4月19日（日）9：30－15：00

- 目 的： 1 「郷土の恵みの森づくり」により地域との協働で復活した道の利用  
 2 地域に眠っている“文化や歴史”を紹介する  
 3 “森林レンジャーだからこそ”の自然の現状を伝える  
 この3つを柱に「あきる野・自然・ルートの魅力」を感じてもらう

実施者： サポートレンジャー鈴木さん、加瀬澤、パブロ、杉野

参加者： 13人（市内外在住）

内 容： サポートレンジャーの鈴木さんからは歴史について、レンジャーからは自然の魅力や現状について、それぞれ解説を行いました。今回のツアーを開催するに当たり、情報提供をしてくださった方が多く、昔も今も地域に愛され続けているルートと言えます。このルートは、目的やガイド、季節によって多様に利用できる魅力が多く、様々な案内人に利用してもらうことで、協働の森づくりの重要性と本市の魅力を発信していけるのではないかと考えています。



## 2-5 市の森づくり事業



実施： 平成24年より毎年実施

参加者： 30～40人程度（新宿区民）

内容： 毎年、市内にある「新宿の森・あきる野」に新宿区民が下刈り体験に訪れます。レンジャーは、その体験のサポートや自然解説を行っています。また、新宿区の子どもたちのサポートとしてコレンジャーが参加しています。

## 2-6 アニマルサンクチュアリ活動

（野生動物と人が持続的に共存していくための取組）

### ○ 植樹ツアー



日時： 平成25年11月23日（土）9：00～13：00

参加者： 5人（市外在住の大人）

内容： 針葉樹の森で野生動物やその痕跡のことを解説すると「針葉樹の森に野生動物はいない」と思っていた参加者は驚いていました。しかし、針葉樹の森

に野生動物の餌となる実をつける木が少ないことは森を歩けば明確に分かります。そこで今回は、針葉樹の古木や劣勢木の除伐を行った森に、コナラやケンボナシ、オニグルミを植樹しました。これらの木を利用する哺乳類、その哺乳類をエサとする猛禽類なども生息する多様性のある森になることを願って参加者と共に汗を流しました。参加者の中には、サポートレンジャーに参加するなど、少しずつ共に行動する力が増えています。



○ まいまいクラブとの活動

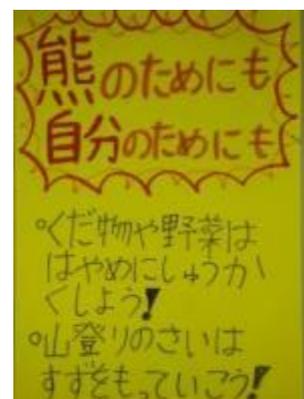
日時： 平成26年4月12日（土）9：00－16：00 他

実施者： 加瀬澤、杉野

参加者： 16人（子ども11人、大人5人）

内容： まいまいクラブとは“親育て子育て”を目的として、本市を中心に様々な活動をしている親子のクラブです。平成26年4月に、2月の大雪の影響で延期していた植樹を行いました。樹種はツノハシバミとし、平成25年に植樹を行った場所に新たに2本植樹しました。

その他、平成25年11月には、野生動物と人間が共存していくための注意喚起ポスターを作成しました。登山者への注意喚起となるポスターは、柿平、金比羅、大野道、大岳沢の登山口に設置し、地域住民への注意喚起となるポスターは、養沢、寺岡、軍道、落合自治会の掲示板への設置を各自治会長にお願いしました。



○ 森の子コレンジャーとの活動

・ 植樹ツアーの森のその後

植樹ツアーで人が手を入れた森を第3期コレンジャー（平成25年度）が引継ぎ、自然を昔に戻す会から譲り受けたクヌギの実生苗を、それぞれの家庭で一年間育てて植樹しました。植樹前には、針葉樹を2本間伐し、植樹する林床の整備を行いました。コレンジャーが育てたクヌギの他に、ツノハシバミやケンポナシ、コナラなども数本植樹しました。

自分たちが関わった森のその後を知りたいというコレンジャーの声もあり、毎年夏には、下刈りや経過を見守るという目的で同窓会を実施しています。全ての木が順調に育っているわけではありませんが、整備をした林床には、キイチゴ類やサンショウ、アケビなどの実生も確認しています。



・ ビオトープ整備

50～60年前まで谷津田として利用されていた場所を地権者の協力のもと、水生生物や小型野生動物が利用する水場を作るという目的で、第3期コレンジャー活動から整備を始め、3年間継続しています。水場の他にも、荒廃した森や昔道の整備を行っています。その際に伐採した常緑樹の木や倒木を、柵や階段、土留め、橋、炭焼きや後輩が作る名札に活用しています。

これまで、両生類やトンボ類などの水生生物、小型哺乳類、鳥類など、多くの野生動物がビオトープを利用してくれていることを確認しています。

※ 活動の詳細は「森の子コレンジャー通信」参照



- 堅果類豊凶調査

平成25年から堅果類の豊凶調査を行い、注意喚起ポスターを作成しています。森の実は毎年同じようにつくわけではないことや、多くの野生動物にとって堅果類は冬を迎えるための重要な食物であることを知ったコレンジャーが、野生動物を人里へ誘引しないために人ができることを考え、ポスターを作成し掲示しています。

※ 活動の詳細と写真は「堅果類豊凶調査」と「森の子コレンジャー活動」参照

### 3 まとめ

レンジャーの活動が平成27年で6年目を迎え、これまで通り日々の活動（調査、巡視、協働の森づくり、登山道の安全管理、森の魅力の発信、環境教育）を継続していく中で、自然や地域住民、そして子どもたちから多くのことを学びました。こうしたつながりを継続していることで、地域住民や変化していく自然に沿うプログラムが実施できたと考えています。

市内小学校の体験学習では、子どもたちから「自然のことを好きじゃなかったけど好

きになった」「自然は私たちにとって大切だと実感した」「もっと自然のことを知りたいと思った」「自然はあきる野の宝」などと体験から感じた声を聞きました。

コレンジャーの活動では、「自分の好きな自然を取り巻くつながりを発見した」「自然と人がお互いのことを思って生きないとだめだと思った」「自然好きの仲間ができた」「自然を壊す人もいるけど守り育てることができると知った」という子どもたちの声があり、保護者の皆さんからは、活動を通して「子どもが自分自身で準備ができるようになった」「想像力がついた」「好きなことを自分でやる力がついた」など、子どもたちの変化を教えてくださいました。そして、「子どもに自然のことを教えてもらう」「親も自然のために何かしたい」など、自身の体験から学んだ子どもたちが周りの人に自然に対する思いをつないでいたことが分かりました。

環境教育は環境問題解決のための教育です。問題解決のためには自然のことや自分の目で見て判断し行動することの大切さを知る必要があります、レンジャーと共に過ごす“自然体験”をきっかけとして、参加者や家族がそれぞれ“自然との関わり方”を見出しているようです。

自然と人の関わり方が変化してきているからこそ、自然に目を向け、耳を傾けるきっかけとなる環境教育活動を実施し、「自然から人へ、人から自然へ。子から大人へ、大人から子へ。」という「互いに学ぶ」思いを大切にしています。